

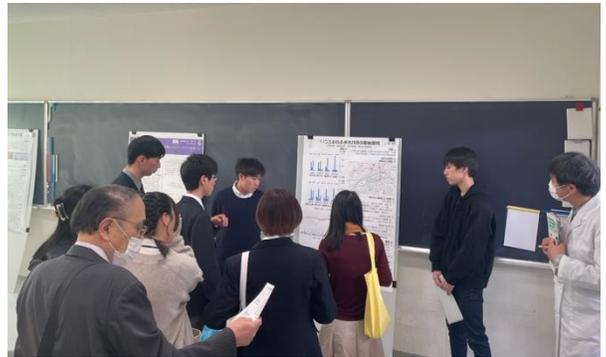
《概要》

令和7年2月1日、東京都立戸山高等学校にて第13回生徒研究成果合同発表会が開催された。戸山高校は平成16年(2004年)から一高と同様にSSH校に指定されている。この学術発表の場には戸山高校と参加校だけでなく、早稲田大学の教授をはじめとする多くの外部講師も来ていた。今までの学術の成果を発表し、互いの研究について理解を深める貴重な経験となった。一高の中から5班が参加し、他の参加者と意見を交換したり、質疑応答を活発に行っていた。そんな5班の方々の発表会の感想を載せることとなった。ぜひ目を通し、発表した彼らが感じたこと、学んだことを一高生に共有できたらと思う。

《各班の感想》

地学ゼミ

戸山高校は、一高のように複数人で研究を行うのではなく、一人一人がそれぞれ研究を行っているにもかかわらず、どれも深く考察しており、私たちの研究を進めるにあたって非常に多くの学びを得ることができました。私たちは初めての校外発表でしたが、研究成果を自信を持って発表し、質問にもしっかりと対応できたと思います。校外に行き、いつもとは異なる環境で発表することで、良い刺激をもらえる良い機会になりました。



化学ゼミ

初めての校外での発表会ということもあり、とても緊張したが、外部の先生方や他の学校の生徒からアドバイスをもらうことができ、とても有意義な時間になった。指導員の方などから鋭い質問や指摘が多くあり、今後の研究に活かせることが多く見つかった。また、県外の高校の課題研究などを見ると、新しい発想を取り入れた研究やとても興味深い発表が多くあった。

数学ゼミ

私たち数学ゼミでは2月1日戸山高校で発表を行い多角的な視点や新たな気づきを得ることができました。中でも戸山高校の方の発表にあったメネラウスチェバ拡張の発表は私たちの発表とも重なるところが多くとても有意義な時間となりました。全国有数の進学校が集まった今発表会は私たちにとって刺激となり、より私たちが学術と向き合う良い時間となりました。



生物ゼミ

戸山高校の教員や講師の方々に様々な質問をいただき、今まで気づかなかた新しい視点からの意見を聞いて研究内容をさらに深めることができた。戸山高校の生徒は一人で研究を行っており、その研究はどれも探究心をくすぐるような興味深い内容で、刺激的だった。戸山高校の生徒の発表スタイルは、一高とは異なり、生徒が聴衆に対して語りかけるような口調で発表を行っていて、聴衆から質問しやすい雰囲気だった。今回の発表は、今後の研究発表に役立つ有意義な発表会にすることができた。



物理ゼミ

発表を通して、とても貴重な時間を過ごすことができた。はじめに大学の教授の方が発表を見に来てくださり、今までの発表では聞かれたことのない質問や指摘を多くしてくださった。特に、私たちの考察が考察ではなく結果になっていると言われ、たしかにと納得した。今回、私たちの研究の良い点、改善できる点を知ることができた。得た気づきを今後の研究にしっかりと生かしていきたい。

《編集後記》

私はこの研究発表会に偶然行く機会を得ることができ、今回発表にあたった5班の方々と共に戸山高校へと赴いた。発表に参加することもできたため、私としても大変貴重な経験となった。参加した方々、自らの立場や職業の知識から研究について質問をしたり、助言をしており、専門家からの見解を知ることができるとても素晴らしい経験となった。この発表会の最後には、戸山高校の先生からの話があった。その方は、今回の発表を通して、SSHがあることの重要性を再認識した、と述べていた。私も同感である。一高と戸山高校の研究スタイルは異なっていた。一高では主にグループで話し合いを行い、研究を進める。この方法のメリットとして、共同作業を経験できること、話し合いによる視野拡大、研究方法の多様化が挙げられる。一方、戸山高校では、一つの研究を生徒一人が行うスタンスであった。このメリットとしては、一人で研究をすることで自由に研究方針を決め、実行することができること、生徒の自主性を最大限に尊重できることが挙げられる。これはSSHを教育の一環としてみた時の私が感じたことである。どちらの方法にも長所、短所はあるが、私にとって今回の発表会は新しいスタンスでの研究であったため、戸山高校の発表はとても新鮮であった。この点についてはいくつかの班も言及しているため、それほど私たちにとって刺激的なことであったということだろう。印象に残った研究も多く、急遽同行した私にとっても有意義な経験となった。 2532 千葉美有